



第 13 号

1992年 9 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



山陽自動車道関連

西上空、斎富遺跡から斎富古墳群をみる

さいとみ
斎富遺跡（山陽町）の発掘調査

山陽町斎富遺跡は、山陽自動車道建設に先立って、平成3年7月から発掘調査を進めています。当遺跡は、斎富古墳群のある丘陵の裾か

ら西に向かって下がる緩斜面に立地し、北約1.5kmには、古代の山陽道が東西にのびます。また、南西約3kmには、備前国分寺・国分尼寺

があります。これまでの調査で、弥生時代から古墳時代の竪穴住居や、古墳時代後半から奈良時代および中世の掘立柱建物などが多数見つかりました。以下、現在までに調査が終了した調査予定地の東半分にあたる前田調査区について、遺跡の概要を紹介します。

現在までに見つかっている一番古い遺物は縄文時代後期から晩期の土器です。わずかな量ですが、この周辺に人々が生活しはじめていたことを知る貴重な遺物です。

はっきりと、人々の営みを窺い知ることができるのは、弥生時代中ごろになってからです。弥生時代中期から古墳時代後半の竪穴住居は、これまでに37軒見つかっており、これらの住居から、土器のほかに石器や管玉、ガラス玉、紡錘車などが出土しています。古墳時代前半の竪穴住居のなかには、住居の床に間仕切りの溝を持ち、山陰地方とのつながりが認められたものもあります。特筆されるのは5世紀中ごろと考えられる当遺跡最大級の床面積を持つ竪穴住居から出土した、珠文鏡と呼ばれる日本製の小型の青銅鏡と朝鮮半島系の軟質土器です。これ以外の竪穴住居からも、朝鮮半島のものと思われる陶質土器が見つかっており、当遺跡と朝鮮半島との密接な関係が推測されます。

また、古墳時代後半から奈良時代にかけての



珠文鏡



奈良時代掘立柱建物群と溝

掘立柱建物は48棟見つかっています。古墳時代後半の掘立柱建物は、当遺跡を見下ろす斎富古墳群と同じ6世紀代のもので、おそらくは、古墳群に埋葬された人々の居住地であったと思われます。注目されるのは奈良時代のもと考えられる9棟で、建物の方向が真北を向いており、その配置に企画性が認められます。さらにこの建物群を画する東西方向にのびる2条の溝があります。奈良時代の出土遺物としては多量の須恵器・土師器とともに普通の集落からは出土しないと考えられる蛇文岩製の丸軻（ベルト飾り）、全国的にも珍しい木の葉様の暗文が施された丹塗り土師器、転用硯、瓦があげられます。これらのことから、奈良時代の建物群は、公的な性格を帯びるものと考えられます。

平安時代から中世にかけても、掘立柱建物や井戸、甕を伏せてそのなかに小皿を数枚入れた平安時代の墓が2基あります。また青磁碗が副葬された鎌倉時代の土壙墓が見つかっています。このほか、はっきりとした時期はわかっていますがこの遺跡がなんらかの鉄生産に関わった証拠と思われる多量の鉄滓が、調査区全体にわたって見つかっています。

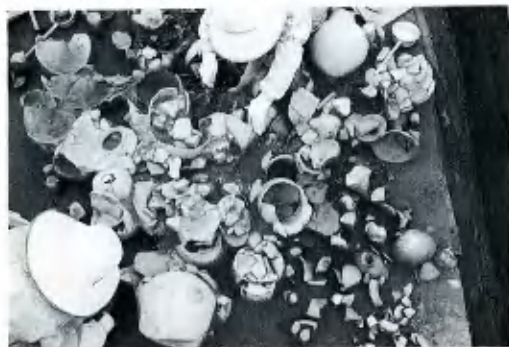
斎富遺跡では、以上述べたような新しい発見が相次ぎ、この地域の歴史を探る上で貴重な資料の増加となります。調査は、平成4年10月をもって、終了予定ですが、今後の調査の進展が期待されます。 (大橋雅也・横山 定)

最近の発掘調査から

津寺三本木遺跡 一岡山市津寺一

県道大内田・高松線の工事に伴い、平成4年4月より発掘調査を実施しています。

山陽自動車道の岡山ジャンクションから東方約300mに位置し、足守川東岸に広がる津寺遺跡の東端にある微高地です。現在、弥生時代後期から江戸時代末までの100遺構が発見され、それらに伴う遺物が100箱出土しています。なかでも、弥生時代後期前半の竪穴住居・袋状土壇・溝、弥生時代末～古墳時代初頭の竪穴住居・溝、古墳時代後期の竪穴住居、奈良時代中ごろの溝、鎌倉時代末～室町時代初頭の掘立柱建物・溝・土壇等の遺構、遺物が中心を占めて



No24溝 遺物出土状況

います。

どの時期にも共通して存在する遺構に溝があり、奈良時代以前ではすべて旧地形に沿って東に張り出しながら北西から南東方向に流走します。

これらの溝は水路と考えられ、当該地が微高地縁辺に位置し、下流域には水田が展開することを示しています。また、弥生時代末～古墳時代初頭の幅3m以上のNo.24溝の上層には土器の多量投棄が認められ、溝と併存した集落跡の存在を示唆しています。さらに、No.30の片口では農業祭祀に使用されたと考えられる弥生時代のシカ形土製品が出土しました。鎌倉時代末～室町時代初頭では深い掘り方をもち、東西に整然と配された溝があり、上層から牛・馬等の大形獣の頭骨等がまとまって出土しています。(高畑知功)



シカ形土製品

備前国府推定地 一岡山市中井一

この遺跡は備前国府推定地内の南西に位置します。警察官舎建設に伴いこの7月より調査中ですが、予想に反し5世紀代の群集する古墳群が発見されました。

現在、方墳7～8基、円墳2基を確認しています。墳丘はいずれも一辺(径)12～13mとほぼ均一で幅2m余の周溝をめぐらしますが、葺石・埴輪はみられません。

こうした沖積低地での大規模な古墳群は県内初例、中・四国でもきわめて稀であり、その所在は吉備における古墳研究の常識をくつがえし、貴重な一石を投ずるものとなりました。なお、古墳は後に大幅に削平を受け、埋葬施設は残っ

ていません。国府に関連した大規模な造成が想定されますが、この時期の建物等は今のところ認められません。(桑田俊明)



古墳群を上空より撮る(写真提供 掘家純一氏)

こうげ 高下遺跡 —岡山市竹原—

高下遺跡は、県内三大河川のひとつ吉井川とその西を流れる砂川に挟まれた独立丘陵の北西裾部にあります。国道2号改築（岡山バイパス）工事に伴い、平成2年10月から発掘調査を行なっています。

調査の結果、弥生時代中期・古墳時代初頭の集落跡や古墳時代前半から中世の集落跡、中世の水田跡など遺構が明らかとなりました。特に弥生時代中期と古墳時代初頭の遺構は住居跡などがよく残っており、当時の集落の一部が明らかとなりました。

最も古い時期の遺構・遺物は、弥生時代中期



六角形の竪穴住居跡

の終わり頃のもので、竪穴住居は1辺4～5mの隅丸方形を呈します。その中には火災を受けて焼け落ちた焼失家屋もあり炭化材の上を焼けた粘土が覆っていました。他には石鏃等の石器を製作したと思われる住居跡もあります。いずれも4本柱です。この他、4×2.5m程の隅丸長方形の竪穴遺構が幾つか検出されました。床面中央がよく焼けていましたが、柱穴・壁体溝はみられません。また、掘立柱建物や土壇もあります。

古墳時代初頭では六角形の平面形をした竪穴住居2軒、掘立柱建物・井戸・土壇等が検出されました。竪穴住居は、住居内の周囲に一段高い床が作られ、2箇所に貯蔵穴が設けられています。柱穴は6本と思われます。遺物には、甕・高杯・手焙り形土器・製塩土器等のほか管玉や土錘があります。

この遺跡は、現在では内陸に入り込んでいますが、今回の調査により出土遺物などから、古墳時代初頭には海と密接な関係をもった集落と推測されます。また、出土した土器の特徴にも瀬戸内の島嶼部と関係をもつものが数多く見つかっています。
(内藤善史)

もびら 茂平城跡・茂平古墳 —勝央町茂平—

勝央町の勝央工業団地拡張に伴う発掘調査として、津山市と境を接する茂平地区にある城跡と古墳について調査を平成4年4月から行なっています。

茂平城は当初郭（平垣面）を6つ有する連郭式の山城と考えられていました。しかし遺構は西側にはなく、一番高い中心の郭面と東・南側の郭に集中することがわかりました。また、建物が重複して建てられており、継続して活用していることがわかりました。遺物もまた、16世紀後半から17世紀後半の陶磁器および備前焼の摺鉢などが出土しています。

茂平古墳は茂平城の西50mにあり、一辺12.5mの方墳で、主体部は木棺直葬と想定されます

が、後世に大規模な盗掘を受け、その構造や時期は不明です。
(氏平昭則)



茂平城跡の全景（上空より）

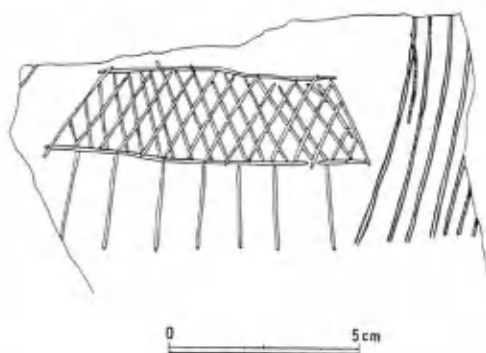
窪木遺跡（総社市）の絵画土器

1990年度から岡山県立大学（仮称）建設に伴って発掘調査を実施している窪木・南溝手両遺跡（総社市）では、これまで弥生時代前期初頭の玉造り関連の遺構・遺物や平安時代の「馬養」銘須恵器が出土するなど多くの成果が得られていますが（所報第11号参照）、本年6月には建物を描いた弥生時代後期初頭の絵画土器が出土しました。

絵画土器は、窪木遺跡の掘割予定地調査区で検出された弥生時代後期初頭の旧河道の埋土中から出土しました。この土器は約20×13cmの大

きさの器台の破片で、表面に寄棟の掘立柱建物の絵を線刻で描いています。

建物が描かれた弥生時代の土器片は全国すでに40例前後知られていますが、今回のように建物の全体の形のわかるものはきわめて珍しいものです。また、この建物は柱の間が6間もあり、通常の建物に比べてかなり大きいのが特徴で、その性格をめぐって今後大いに論議をよぶ資料となるでしょう。（平井泰男）



高下遺跡の石組み井戸状遺構

高下遺跡では弥生時代終末から古墳時代初頭の遺構として、堅穴住居、掘立柱建物、土壘などともに石組みの井戸が検出されました。

この井戸は、直径約1.7 mのほぼ円形をしており、検出面からの深さは約1.6 mで、人頭大の角礫を使用した石組みを伴っていました。井戸の底部は直径約50cmで、厚さ5 cmくらいの平たい礫が敷かれており、側面にも板状の礫が縦長にはり付けられていました。その上からは人頭大の角礫を小口積みにして内径約50cmの井戸枠を作っており、角礫の裏側は10~20cm角の小角礫で裏ごめされていました。

このような石組みを伴う井戸は、鎌倉時代から室町時代にかけて普通に見られるものですが、それ以前には極めてまれで、確実に古墳時代までさかのぼるものは全国的にも例がありません。

今回検出された井戸からは弥生時代終末から古墳時代初頭とみられる土器片が出土しており、層位関係からもほぼ確実に古墳時代以前の遺構と考えられます。これまで中世を中心に語られてきた石組み井戸の歴史を考えるうえで極めて重要な資料といえるでしょう。（村田秀石）



石組み井戸検出状況

普及啓発事業

スライド発表会・パネル展示

—「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」—

最近の開発事業の増加にともなって、埋蔵文化財の発掘調査の重要性はますます高くなっています。また、近年、新聞・テレビ等での報道も多くなり、文化財に対する関心も高まりつつあります。

本年度も当センターでは、啓発活動の一つとしてスライドによる発掘調査の報告会を関係機関の協力を得て開催しました。また、同時にパネル展示も会場の壁面を利用して実施しました。

当日は、例年を上回る160名ほどの参加者で講堂の後ろの席まで満席となり、関心の高さを改めて感じました。今後、さらに参加者が増えることも予想され、新たな対応も考えていかなければならない時期にさしかかっているようです。なお開催の要領は下記のとおりです。

(速水章人)

1. 日時 7月18日(土) 13:30~16:30
2. 場所 岡山県立博物館 講堂
3. 発表遺跡
 - (1)みそのお古墳群ほか(御津町)……古代吉備文化財センター



- (2)吉野口遺跡(岡山市)……岡山市教育委員会
- (3)大開古墳群(津山市)……津山市教育委員会
- (4)窪木宮後遺跡(総社市)……総社市教育委員会
- (5)久原3・4号墳(新見市)……新見市教育委員会
- (6)美作国府跡(津山市)……津山市教育委員会
- (7)船倉貝塚(倉敷市)……倉敷市教育委員会
- (8)馬屋遺跡(山陽町)……古代吉備文化財センター

平成4年度『夏休み少年考古教室』

当センターでは、郷土の歴史の理解と埋蔵文化財の保護意識を高めることを目的として、小学校高学年の児童を対象に「夏休み少年考古教室」を毎年1回実施しています。

本年度は、8月6・7日の両日に、岡山市立庄内小学校の5・6年生23名の参加を得て、当センターを中心にして実施しました。

第1日目は、室内でセンターの施設見学、考古学入門学習、土器の復元、文様の復元、拓本の取り方に取り組みました。復元では初めて触れる土器に戸惑いながらも興味を持って熱心に取り組んでいました。第2日目は、野外で火おこし、土器による煮炊き、塩づくり、遺跡見学

を行い、体験学習を通じて、昔の人々の生活に思いを馳せていました。(平松義則)



開講式

日程表

第1日	8月6日(木)	第2日	8月7日(金)
10:00	開講式	10:00	体験学習(2)
10:20	センター施設 見学		・火おこし
11:10	考古学入門学 習		・土器を使った 塩づくり
12:00		12:00	・土器を使い 米、イモ等 を煮る
13:00	昼食	13:00	昼食
14:20	体験学習(1) ・土器の復元 ・土器文様の 復元	16:00	体験学習(3) ・発掘調査現 場の見学
15:10	拓本		津寺三本木遺 跡
16:00	明日の連絡、 かたづけ		津寺遺跡 閉講式



火おこし

「途中で手が痛くなってきて、もういやだと思ったけど、火がついた時は感動的でした。道具を4回も替えてやっと火がつかしました。今だとマッチやライターですぐ火をつけることができるけど、昔の人はとても苦勞したんだなあと思いました。」



土器の復元

「初めはどれを元にしようかまよったけど、色や文様を見て木工用ボンドで付けました。」



土器による煮炊き

「あせがたくさん出て、とても大変でしたが、作った魚やごはんなどはとってもおいしくて、作ったかいがありました。」



拓本

「最後の一つは穴があかなかったし、すごくいいようにできたので、とてもうれしくなりました。」



遺跡の見学

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (平成4年度)

<組織>



<職員>

所長	長	横山 常實
次長	長	河本 清
文化財保護参事(調査第一課長)		葛原 克人
総務課		
課長	長	北原 求
総務係		
課長補佐(係長)		小西 親男
主査		石井 茂
主任		石井 善晴・三宅 秀吉
主事		大西 治郎・亀山 幸治
		宮森 久彰・渡邊 徹也
調査第一課		
文化財保護主幹		松本 和男

第一係

課長補佐(係長)	高畑 知功
文化財保護主査	岡本 寛久・江見 正己
	長谷川 澄博
文化財保護主任	島崎 東
文化財保護主事	平松 義則・椿 真治
主事	速水 章人・高田 知樹

第二係

課長補佐(係長)	岡田 博
文化財保護主査	桑田 俊明
文化財保護主任	平井 泰男・光永 真一
	三上 修二
文化財保護主事	亀山 行雄・川崎新太郎
主事	竹原 伸之・久保忠里子
	長門 修

調査第二課

課長	正岡 睦夫
第一係	
係長	平井 勝
文化財保護主査	大森 善市
文化財保護主事	宇垣 匡雅・高田恭一郎
	弘田 和司

第二係

係長	浅倉 秀昭
文化財保護主査	古谷野 寿郎・中野 雅美
文化財保護主事	澤山 孝之・柴田 英樹

第三係

課長補佐(係長)	山磨 康平
文化財保護主査	内藤 善史・野上 忠司
文化財保護主事	牧 良二・村田 秀石
主事	氏平 昭則

調査第三課

課長	伊藤 見
文化財保護主幹	下澤 公明
第一係	
係長	井上 弘
文化財保護主査	二宮 治夫・窪田 廣志
	野上 和信
文化財保護主任	竹井 孝充・吉久 正見
	石田 容一

文化財保護主事

主事	田原 順・松岡浩太郎
	横山 定

第二係

係長	福田 正維
文化財保護主任	山田 明信
文化財保護主事	東呂木 博・長川 優
	安井 悟・大橋 雅也
主事	瀧川 明德・根木 智宏

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (086)293-3211

●交通案内

- ・ J R 山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・ J R 吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・ J R 岡山駅下車岡電バス岡山駅前より神道山行終点下車徒歩5分

